



グリフィンス4戦目は、法政大学ORANGE。

SPRING GAME 4th 2025年6月1日(日)K.O13:30 天候:晴 場所:法政大学川崎総合グラウンド

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 法政大学 ORANGE	10	10	0	9	29
 明治大学 GRIFFINS	7	14	7	0	28



1Q

試合開始直後、ロングパスを許してしまい、50ヤード付近からの一発でそのままタッチダウン。いきなり7点を失う苦しい立ち上がりとなります。
しかし、直後のシリーズで#15新楽(4年生)がQBスクランブルで大きくゲインし、敵陣9ヤードまで前進。
この好機を#21高橋(4年生)が冷静に決め切り、すぐさま同点に追いつきます。
ただ、勢いに乗り切れない中で法政大学がフィールドゴールを決め、再び3点を追う展開に。
試合はそのまま、第2クォーターへと入っていきます。

2Q

明治のオフェンスは開始早々からテンポよく進み、#21高橋のランで中盤まで前進すると、#15新楽から#11後藤への40ヤードのロングパスが決まり、そのままタッチダウン。再び法政大学を追い越し、試合の主導権を握りかけます。
しかし、悪いフィールドポジションからのディフェンスは苦しい立ち上がり。
自陣残り40ヤードという状況の中、法政大学のテンポの良い攻撃に対応できず、再びタッチダウンを許す展開となります。
それでもここで再びオフェンスが流れを取り戻します。
ランとパスを織り交ぜながら着実に前進し、最後は#15新楽から#18杉崎(4年生)へのパスが決まり、杉崎が巧みなランアフターで相手ディフェンスをかわしてエンドゾーンへ。貴重な追加点を挙げ、再びリードを奪います。
しかし前半終了間際、1分を切ったところで相手QBのランプレーに対応できず、再び失点。明治にとっては、終盤に痛いタイミングでの失点となり、拮抗したまま前半を終えることとなります。





3Q

第3クォーターは立ち上がりから明治が流れを掴みます。
#12堀切から#1桑村へのロングパスが成功し、一気にリズムを呼び込む展開に。
続くプレーでも#37木村と#5宇野が力強いランで着実にゲインを重ね、最後は#5宇野が持ち込んでタッチダウン。
明治が再び法政大学を逆転します。
その後は両チームのディフェンスが集中力を高め、互いに譲らぬ展開が続いたまま無得点で第3Qが終了。
試合は緊張感を保ったまま、勝負の最終クォーターへと突入します。

4Q

膠着状態が続いていた第4クォーターでしたが、ついに明治ディフェンスが法政の猛攻に耐えきれず失点し、法政に2点差まで追いつかれてしまいます。
その間、明治のオフェンスは攻めあぐねる展開が続くなか、法政は多彩なパス攻撃を繰り出し、残り2分でキック圏内まで侵入。
時間を巧みに使いながらフィールドゴールを決め、残り1分で1点差に迫る厳しい状況となりました。
しかしその後、明治の攻撃は法政ディフェンスに阻まれ、試合終了のホイッスル。
惜しくも1点差での敗戦となり、悔しい結果で試合を終えました。



チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 法政大学 ORANGE	0	6	—	—	6
 明治大学 GRIFFINS	12	12	—	—	24

1q

JV戦は立ち上がりから試合が動きました。最初のビッグプレーは#37木村(2年生)、自陣から鋭く抜け出すと、そのまま70ヤードを独走してタッチダウン。相手ディフェンスを寄せつけないスピードで、いきなり試合の主導権を握ります。続くシリーズでもオフェンスは積極的に攻め込みます。4th down残り2ヤードという難しい場面で#5宇野(3年生)が中央を突破し、28ヤードのロングゲインで一気にゴール前1ヤードまで前進。最後は木村が再びボールを託され、力強く押し込んで追加点を奪います。前半はこのまま優位に進むかと思われましたが、終了間際に法政大学がテンポよくショートパスを重ねてリズムを掴み、自陣15ヤードまで攻め込まれる展開に。ディフェンスにとっては厳しい状況の中で前半が終了し、後半はピンチを抱えたままスタートを迎えることになります。

2q

後半開始直後、法政大学が勢いあるオフェンスを展開。4th downでギャンプルに出てゴール前へのパスを狙いますが、#33岩崎(3年生)がこれを見事に防ぎ、一度はピンチを切り抜けます。しかし反則により再び残り2ヤードからの攻撃を許し、ここは守り切れず失点となります。反撃のオフェンスは、#12堀切(3年生)から#80小渦(3年生)への40ヤードパスが成功し、流れを引き寄せます。しかしその後は決め手を欠き、得点にはつながらず再び守備に託します。ここからはディフェンスが相手を封じ、反則にも助けられながらオフェンスが前進。#12堀切から#88田原(3年生)へのパスで敵陣1ヤードまで迫り、最後は#47小山田(3年生)が押し込んでタッチダウン。直後のシリーズでは#49北本玲央(1年生)がインターセプトからそのままエンドゾーンへ運ぶビッグプレー。このダメ押しの得点で勝負を決定づけ、最後はディフェンスが危なげなく守り切り、明治大学が勝利を収めました。





◆法政大戦を振り返って

法政戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

◆インタビュー #15 新楽圭冬 (QB)



■法政大学と対戦した印象。

オフェンスとしては特にランがかなり出ていて、組み立てやすいようなディフェンスをしてくれた印象です。

■法政戦の反省

反省としては前半全シリーズでTD取ったものの、後半なかなか取れず淡白なオフェンスになってしまったのでそこは自分の責任かなと感じています。

■次戦への意気込み。

次戦は春の中でも重要な位置付けとなる試合なので、秋に向けて弾みをつけられるような試合をできるようにしっかりと準備して臨みたいと思います。

◆インタビュー #18 杉崎友則 (WR)



■法政大学と対戦した印象。

関東王者としての勝負強さを感じました。特にWRの球際やロングパスの精度が高く、自分としては見習うべきところが数多くあると感じました。

■法政戦の反省

後半で相手がアジャストしてきた時に前半のようなプレーやドライブができなかったことが最後の負けにつながったと感じました。自分としてもイージーなミスが出てしまったので改善していきたいです。

■次戦への意気込み。

秋シーズンでも当たるので相手に嫌なイメージを付け、自分たちがいいイメージを持てるような試合にしたいです。また、これまでの試合の反省を活かしモメンタムを持ってこれるプレーを多く起こせるように頑張ります。

◆インタビュー #50 水野俊輔 (DE)



■法政大学と対戦した印象。

昨年の秋準優勝のチームであり、一人一人の能力やスキルが高い印象があった。

■法政戦の反省

フィジカル、パワーで負けることがあり、1体1の場面で勝ちきれないことがあった。

■次戦への意気込み。

次戦は中央大学と対戦するが、中央大学は秋でも必ず対戦する相手なので、春から勝ちに拘っていきたい。



◆法政大戦を振り返って

法政戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

◆インタビュー #52 中敬進 (LB)



■法政大学と対戦した印象。

怪我からの復帰後、初の試合となり、非常に緊張感のある試合でした。

■法政戦の反省

今回は、基礎を全うすることを目標に臨みましたが、実際には初歩的な課題が多く見つかる内容となりました。

■次戦への意気込み。

。次の試合までにプレー経験を積み、自分にできることを一つでも多く増やしていけるよう、努力したいと考えています。

◆インタビュー #49 北本玲央 (DB)



■法政大学と対戦した印象。

去年準優勝した大学として強いチームという印象はあったが、負けるビジョンはなく全然やり合えると思った。

■法政戦の反省

自分はJV戦とキッキングのみの出場だったが、その中でもアサイメントミスであったり意識的に変えられるミスをしてたので、そこを変えていきたい。

■次戦への意気込み。

次戦も自分は試合に出られるか分からないがその中でもチームの一員として出来ることはあると思うので、自分の役目をしっかりと果たしたい。

◆インタビュー #37 木村凱 (RB)



■法政大学と対戦した印象。

守備の寄りが早くて、一瞬の判断が求められるような試合だった。

■法政戦の反省

グリフィnzのRBとして「低く、強く、速く」が体現できていなかった。

■次戦への意気込み。

足をとめずに自分の強みであるスピードを活かしたプレーをする。



明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS

2025年度6月号-1-6

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会



■次戦

2025年6月15日(日) 15:15 K.O. アミノバイタルフィールドで中央大学との対戦です。
昨年は秋シーズンで中央大学に勝利している**GRIFFINS**。

惜敗した法政戦の経験を活かし、1点にこだわる試合運びを期待したい。
秋シーズンにも確実に衝突することになる中央大学に対し、どこまで良いパフォーマンスができるかが見所となっております。

中央戦への勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！

GRIFFINSを皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go ! GRIFFINS.